

4. 刊行物・主催会議等

気象研究所の研究成果は、気象庁の業務に活用されるほか、研究所の刊行物、研究成果発表会などを通じて社会に還元している。

また、関連する学会や学会誌などで発表することにより、科学技術の発展に貢献している。

4.1. 刊行物

気象研究所研究報告 (Papers in Meteorology and Geophysics)

研究成果の学術的な公表を目的とした論文誌 (ISSN 0031-126X)。

気象研究所職員及びその共同研究者による原著論文、短報及び総論(レビュー)を掲載している。主な配布先は、国の内外の研究機関・大学、気象官署などで、国立国会図書館でも閲覧することができる。

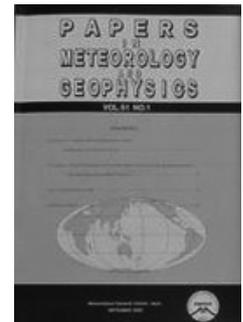
平成 17 年度からは 独立行政法人 科学技術振興機構が運営する科学技術情報発信・流通総合システム“J-STAGE”に登録し、オンライン発行とした。

J-STAGE URL: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mripapers>

平成 24 年度は第 63 巻を発売し、次の論文を掲載した。

第 63 巻

- ・ 増田一彦 : Influence of wind direction on the infrared sea surface emissivity model including multiple
- ・ 増田一彦, 石元裕史, 真野裕三 : Efficient method of computing a geometric optics integral for light scattering by nonspherical particles reflection effect
- ・ 小口哲史, 藤部文昭 : Seasonal and regional features of long-term precipitation changes in Japan
- ・ 緑川 貴, 田上英一郎 : Vertical distribution and chemical nature of strong ligands for copper(II) in the western North Pacific
- ・ 藤部文昭 : Evaluation of background and urban warming trends based on centennial temperature data in Japan
- ・ 瀬古 弘, 林 修吾, 斉藤和雄 : Processes Generating Convection Cells near Sumatra Island in the Monsoon Season



気象研究所技術報告 (Technical Reports of the Meteorological Research Institute)

研究を行うなかで開発された実験方法や観測手法などの技術的内容や研究の結果として得られた資料などを著作物としてまとめることを目的とした刊行物 (ISSN 0386-4049)。主な配布先は、国立国会図書館、国内の研究機関・大学、気象官署などで、気象研究所ホームページ(<http://www.mri-jma.go.jp/>)でも閲覧することができる。

平成 24 年度は、第 68～70 号を発売した。

- ・ 第 68 号「国際シンポジウム電子顕微鏡を用いたエアロゾル研究」
(五十嵐康人, Weijun Li, Peter.R.Buseck, 岡田菊夫, 張代洲, 足立光司, 藤谷雄二, 嶋寺光, 五藤大輔, 三井千珠, 野島雅, 大島長, 松井仁志, 石元裕史, 松木篤, Pradeep Khatri, 中山智喜, 向井将平, 大石乾詞, 間山憲仁, 坂本哲夫, 直江寛明, 財前祐二, 塩流水洋樹, 田中泰宙, 梶野瑞王)
- ・ 第 69 号「マグマ活動の定量的把握技術の開発とそれに基づく火山活動度判定の高度化に関する研究」
(地震火山研究部)
- ・ 第 70 号「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震による津波高の現地調査報告」
(林 豊, 前田憲二, 対馬弘晃, 岡田正實, 木村一洋, 岩切一宏)



4.2. 発表会、主催会議等

・気象研究所研究成果発表会

気象研究所の研究成果を広く一般に紹介し、社会的評価を高めることを目的とした発表会で毎年1回開催している。平成24年度は、平成25年3月13日（水）に気象研究所講堂で開催し、以下の研究成果について発表した。

【報告題目】

- ・地震の揺れのリアルタイム予測：次世代の緊急地震速報を目指して
報告者：干場 充之（地震火山研究部 第四研究室長）
- ・ヒートアイランドの現在と未来
報告者：青柳 暁典（環境・応用気象研究部第二研究室 研究官）
- ・グリーンランドから地球温暖化をみる
報告者：青木 輝夫（物理気象研究部 第三研究室長）
- ・つくば竜巻：二重偏波レーダーによる実態解明
報告者：山内 洋（気象衛星・観測システム研究部第二研究室 主任研究官）
- ・社会的に大きな影響があった顕著現象(平成24年)
～急発達した低気圧・つくば竜巻・九州北部豪雨～
報告者：加藤 輝之（予報研究部 第三研究室長）

・竜巻講演会

平成24年5月6日につくば市等で竜巻による被害が発生したことを踏まえ、気象研究所などつくば市内の研究機関では今回の竜巻に対し、発生メカニズム解明や被害調査による風速推定、レーダーによる監視技術向上など、多面的な研究に連携して取り組んでいる。その現状を整理して市民にわかりやすく伝え、市民がみずから身を守るためにできることを考えるきっかけをつくるとともに、市民の自然科学及び防災に関するリテラシー向上に資することを目的として、平成24年6月30日（土）に共催機関であるつくば市のつくば市役所で講演会を開催した。大変短い期間で広報周知活動や準備を行ったが、180名もの市民・研究関係者等に聴講頂いた。

【講演題目】

- ・はじめに：竜巻とは？－さまざまな課題－
発表者：角村 悟（気象庁気象研究所 気象衛星・観測システム研究部長）
- ・現現地調査：竜巻による建築物の被害形態について
発表者：喜々津仁密（(独)建築研究所 構造研究グループ主任研究員）
- ・気象レーダでみる竜巻とその親雲：竜巻の観測について
発表者：鈴木真一（(独)防災科学技術研究所 観測・予測研究領域主任研究員）
- ・竜巻が生まれた気象状況：竜巻の予報はできるのか？
発表者：加藤輝之（気象庁気象研究所 予報研究部第三研究室長）
- ・竜巻にそなえて～気象情報を上手に使おう～
発表者：渡辺典昭（気象庁東京管区气象台 水戸地方气象台長）

講演概要は気象研所内のホームページ(http://www.mri.jma.go.jp/Dep/ap/TEM_sympo/MRI_TEM_sympo.html)に記載している。

・ 第 10 回環境研究シンポジウム「災害と環境 一守る！備える！！乗り越える！！！」

「環境研究シンポジウム」は、気象研究所を含む、13 の環境研究に携わる国立試験研究機関、国立大学法人及び独立行政法人が参加する「環境研究機関連絡会」が主催する公開シンポジウムで、毎年、決まったテーマの下で、参加する研究機関が成果の発表を行っている。平成 24 年度は平成 24 年 11 月 14 日（水）に学術総合センターの一橋記念講堂（東京都千代田区）において開催され、気象研究所は以下の講演及びポスター発表を行った。

【講演】

講演名：観測データからみる極端な気象現象

講演者：環境・応用気象研究部 第二研究室長 藤部 文昭

【ポスター発表】

- ① 地球温暖化に伴う北太平洋西部における海面水位変化
- ② 衛星搭載マイクロ波放射計 AMSR による台風観測
- ③ アルゴフロート観測による海洋内部状態の再現性の向上
- ④ メソスケール顕著気象予測への取り組み
- ⑤ 2012 年 5 月 6 日に発生したつくば竜巻の発生要因
- ⑥ 平成 24 年 7 月九州北部豪雨の発生メカニズム
- ⑦ 太陽光発電量予測に向けた気象庁メソ数値予報モデルの日射量予測誤差とその特性
- ⑧ 都市温暖化と地上風速の関係 ー過去 30 年間の土地利用変化に伴う気候変化シミュレーションー
- ⑨ 気象研究所の研究活動